

患者さまへ

大腿骨近位部骨折患者のYAM値と急性期病院退院時の 歩行レベルの関連について

この研究は 通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究は国が定めた指針に基づき実施されます。研究の対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開し、同意頂けない方には、その旨の連絡を頂く問合せ先を明示することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	<p>2023年11月から2025年12月において 大腿骨近位部骨折の診断名で当院にて手術加療を行なった症例。 ただし、脆弱性骨折以外の外傷症例、多発骨折受傷症例、入院中死亡症例は除きます。</p>
2 研究目的・ 方法	<p>大腿骨近位部骨折後の身体機能低下には年齢、受傷前の歩行能力、認知症の程度が影響を及ぼすことが報告されています。超高齢社会である日本では、骨折発生数のさらなる増加が予測されています。大腿骨近位部骨折は骨粗鬆症マーカーであるYAM値に依りて発生率が高くなることが知られていますが、YAM値が術後の歩行能力再獲得に影響するかどうかについては明らかになっていません。</p> <p>そのため、大腿骨近位部骨折術後患者のYAM値が退院時の歩行レベルに影響するかどうかを検討する本研究を立案しました。</p> <p>研究の方法は通常の診療より得られた医療情報（既存情報）のみを調査する観察研究で当院のみで実施します。</p> <p>研究の期間は、施設院長許可後～2026年6月30日を予定しています。</p>
3 研究に用いる 情報の種類	<p>[収集する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究対象者背景 性別、年齢、身長、体重、家族構成、介護度、転倒前歩行レベル（ベッド上、車椅子、伝い歩き、歩行器、杖、独歩で評価） ・ 医学的情報 診断名、既往歴、心エコー、生化学検査、服薬状況、入院日、退院日、認知機能（AMTS）、下腿周径、身体運動機能（SARC-F、握力、歩行様式、受傷前NMS） 転帰（自宅退院、転院、施設） ・ 入院中経過 各ADL到達までの期間（端座位、立位、車椅子、歩行）、術後疼痛（術後2週間）、術後生化学検査、画像検査、退院時身体機能（AMTS、握力、下腿周径） <p>[情報の保管・廃棄方法]</p> <p>収集した情報は研究責任者のもと保管します。</p>

	<p>保管期間が過ぎた後は当院の手順に従い、個人情報に注意して破棄します。 保管期間：2031年6月30日まで（研究の終了より5年間）を予定</p>
4 情報を収集 開始予定日	2025年3月10日より
5 研究実施体制	<p>[研究責任者] 岸和田徳洲会病院 リハビリテーション科 吉田 龍洋</p> <p>[統計解析責任者] 岸和田徳洲会病院 リハビリテーション科 河村 知範</p>
6 お問い合わせ先	<p>本研究への情報利用を拒否したい場合や、その他 本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>また、ご希望があれば他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>[照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 研究責任者：岸和田徳洲会病院 リハビリテーション科 吉田 龍洋 〒596-0042 大阪府岸和田市加守町4丁目27-1 072-445-9915（代表） <p>または</p> <p>岸和田徳洲会病院 臨床試験センター 〒596-0042 大阪府岸和田市加守町4丁目27-1 072-445-9915（代表）</p>

2025年3月4日作成（第1.0版）